



## 6. 高松港長期構想

### 6.1 高松港が果たす役割

高松港の現況や社会動向、要請を踏まえ、長期構想として高松港が果たす役割を「物流・産業」「交流・賑わい」「安全・安心」の3つの柱で整理します。

#### (1) 【物流・産業】

- フェリー・貨物と内貿貨物で高いシェアを占めており、県民の生活や産業にとって大きな役割を果たしています。
- 人口減少と高齢化の進行、労働基準の改正により、人手不足が顕在化しています。
- 全国的に、荷役・輸送の効率化のため「海上貨物のコンテナ化」が進行しています。
- 輸送コストだけでなく環境負荷低減の観点からも、モーダルシフトや港湾ロジスティック・ハブの形成、DX などによる物流の効率化が求められています。
- 県内企業において、アジア地域との関わりが大きくなっている中、韓国・中国に加えて東南アジア航路の開設が期待されています。
- 貨物船、コンテナ船、自動車専用船など、船舶の大型化が進展しています。
- 2050年までに脱炭素社会を目指すとして政府が宣言している中、港湾において、カーボンニュートラルポートの形成が求められています。
- 技術の流出やコロナ禍におけるサプライチェーンの分断等の経験を背景として、国内に生産拠点を考える企業が増加傾向にあります。
- 香川県内の主な工場は、内陸部より沿岸部に多く立地しています。
- 道路網の充実により、港へのアクセス機能が向上しています。

「アジアと繋がり、地域産業の持続的発展を支える港」を目指します。



## (2) 【交流・賑わい】

- 香川県は、ニューヨークタイムズ(米国)が選んだ「2019 年に行くべき 52 ヶ所の旅行先」として、「瀬戸内の島々」が日本で唯一選ばれたほか、旅行予約サイト世界大手のブッキングドットコム(オランダ)が発表した「2020 年に訪れるべき目的地 10 選」にも、高松市が国内で唯一選ばれるなど、世界からの注目が高まっている地域となっており、外国人延べ宿泊者数も大きく伸ばしています。
- 玉藻地区は、多くの交通機関が集積する海陸交通の要衝に、「みなと」と「まち」が一体となったエリアが形成されており、「サンポート高松」の愛称で、県民に親しまれています。
- 離島航路では、離島人口が減少する中、サンポート高松へフェリーターミナルが移転し、交通結節機能の強化が図られたことを契機に、乗降人員が増加傾向に転じています。
- 「瀬戸内国際芸術祭」が平成 22 年から 3 年に一度開催されており、高松港は島々への玄関口として中心的な役割を果たしています。
- 玉藻地区において、中四国最大級の収容人数を誇るアリーナや交流エリアを有する、新県立体育館の整備が進められています。
- 玉藻地区の客船専用岸壁は、街に近く、フリーWi-Fi スポットが設置された恵まれた立地にあり、乗船客に好評を得ています。
- 港間におけるクルーズ客船の受入競争が激化する中、クルーズ客船の大型化が進行しています。
- 玉藻地区では、海辺空間の賑わい創出を目指して、街と海との接線において、連続するプロムナードの整備を進めています。

「海陸交通の要衝、快適で人々を惹きつける港」を目指します。



## (3) 【安全・安心】

- 港湾は、国民生活と産業活動を支える重要な物流・生産基盤であり、また、背後には多くの人口・資産が集積しているため、高潮、津波等の災害から、人命・財産を直接防護する港湾海岸施設の役割は非常に重要です。
- 南海トラフを震源とする地震におけるマグニチュード 8～9クラスの地震の発生確率は、今後30年以内に70～80%程度とされており、その際の香川県内の震度は5強～7になると予想されています。
- 地球温暖化は、長期的に海面水位の上昇とともに熱帯低気圧の強度の増大をもたらすと予測されており、将来の高潮による浸水被害に大きな影響を与え、激甚化・頻発化する可能性があります。
- 過去の大規模災害においても、海上輸送は様々な領域で活躍しています。
- 県内企業においても、アジア地域など諸外国との関わりが大きくなっており、災害などでサプライチェーンが分断した際の影響が懸念されます。
- 港湾管理者の財政状況が厳しい中、社会経済活動の基盤であるインフラは、高度成長期に整備したものが一斉に老朽化することが見込まれています。
- 玉藻地区は、国の現地対策本部設置が予定されている高松サンポート合同庁舎が立地しており、四国の防災拠点としての役割が求められています。
- 四国の広域的な海上輸送の継続計画(広域海上BCP)において、広域海上輸送計画の中核となる港として位置づけられています。

「災害時の市民生活や企業活動を支える港」を目指します。



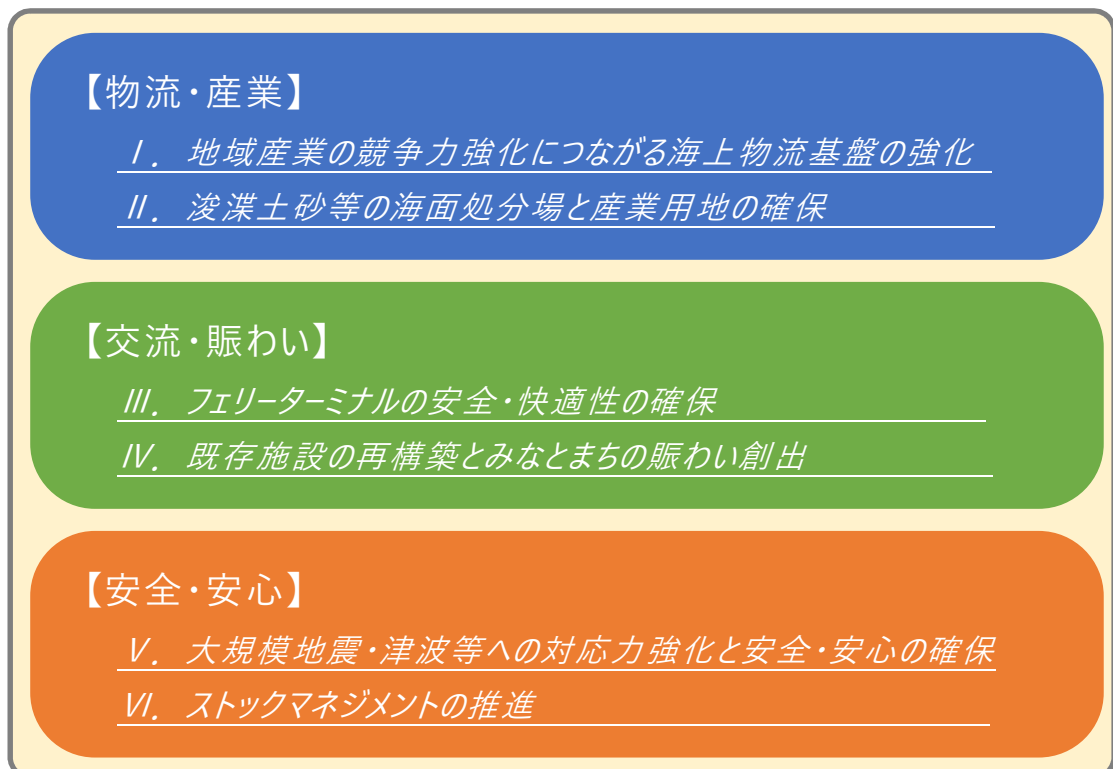
## 6.2 高松港が目指すべき方向性

高松港が果たす役割の実現に向け、目指すべき方向性を定め、取り組みを進めます。

### ○高松港が果たす役割



### ○目指すべき方向性



### 6.3 高松港を取りまく状況の整理

#### (1) 現況と社会動向の整理

高松港長期構想の実現に向けた取組みを抽出するにあたり、高松港の現況と社会動向を物流・産業面、交流・賑わい面、安全・安心面のそれぞれにおいて、内的・外的要因と港湾活動へのプラス・マイナス要因として整理したものを以下に示します。

#### 1) 物流・産業面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内唯一の定期コンテナ航路（韓国（釜山）航路4便/週、中国（上海、青島・大連・天津）航路2便/週、国際フィーダー（神戸）航路1便/週）</li> <li>・ 高松神戸航路が1日4便が運航しており、国際コンテナ戦略港湾との結びつきが強い</li> <li>・ 三次元重心測定機能付きトラックスケール「s a t r s」やコンテナヤード管理システム、出入管理情報システムの導入等コンテナターミナルにおける先進施設</li> <li>・ コンテナターミナルや耐震強化岸壁、6.7haのふ頭用地等を備えた国際物流ターミナルの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンテナターミナルの蔵置空間不足と不適切な配置による非効率な荷役</li> <li>・ 高松神戸航路では、満船のため乗船できない車両が発生</li> <li>・ 高松神戸航路の新造船に対し、既存岸壁の機能及び貨物の蔵置空間が不足</li> <li>・ コンテナターミナルでは、CFSなど背後機能が不足</li> <li>・ 東南アジアのコンテナ定期航路の平均船型に対し岸壁の水深が不足</li> <li>・ (-12m)耐震強化岸壁では、大型の自動車専用船に対し、岸壁延長が若干不足</li> <li>・ 県内の海面処分場での受入れは概ね終了</li> <li>・ 脱炭素の取組みの遅れ</li> <li>・ 前面海域の水深が浅い</li> <li>・ 港湾施設の老朽化</li> <li>・ 港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内企業とアジア諸国との経済関係の緊密化</li> <li>・ 海上貨物のコンテナ化</li> <li>・ モーダルシフトの気運の高まり</li> <li>・ DXの気運の高まり</li> <li>・ 脱炭素社会に向けた取組み</li> <li>・ オンリーワン・ナンバーワン企業が県内に多数立地</li> <li>・ 高松神戸航路では、運航事業者が新造船を建造</li> <li>・ 大規模な産業機械工場の立地</li> <li>・ 道路交通網の充実（高松環状道路計画、さぬき浜街道の4車線化事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨海部における東西方向の交通容量が不足</li> <li>・ 臨海部において産業用地が不足</li> <li>・ 本州を結ぶフェリーの減少</li> <li>・ 人口減少と労働力不足</li> <li>・ 船舶の大型化</li> </ul>

## 2) 交流・賑わい面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ客船の寄港数が増加（コロナ禍以前）</li> <li>・玉藻地区のクルーズ客船専用岸壁は、街や鉄道駅等に近い恵まれた環境に立地しており、フリーWi-Fiスポットも設置</li> <li>・朝日地区のコンテナ岸壁では、11万トン級のクルーズ客船の受入れが可能</li> <li>・サンポート高松が街に近く海陸交通の結節点で賑わいがある</li> <li>・玉藻地区フェリーターミナルは、離島住民の生活基盤だけでなく、観光分野においても離島への玄関口</li> <li>・港から見た瀬戸内海や高松城址、屋島等の景観</li> <li>・市街地近傍の西浜地区にビジターバス、民間マリナー、市立ヨット競技場、砂浜などマリレジャー関連施設が立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁盛期における玉藻地区フェリーターミナルの待合空間不足</li> <li>・玉藻地区フェリーターミナルでは、歩行者動線と自動車動線が輻輳</li> <li>・香川県沖の航路では、巨大船の夜間航行が禁止</li> <li>・玉藻地区の客船専用岸壁は、岸壁や背後空間の規模が小さい</li> <li>・朝日地区のコンテナ岸壁でのクルーズ客船受入れは、街から遠く、岸壁の調整が困難</li> <li>・沿岸部のプロムナードが連続しておらず、中央ふ頭付近が閑散としている</li> <li>・交通モードの連携不足</li> <li>・玉藻地区から屋島方向に位置する朝日地区には、多くの産業施設が立地しており、周囲の風景との調和が不十分</li> <li>・船溜まりの強風対策が不十分</li> <li>・港湾施設の老朽化</li> <li>・港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川を訪れる外国人観光客が急増</li> <li>・ニューヨークタイムズなど海外での高い評価</li> <li>・離島航路の便数、乗降人員の増加傾向</li> <li>・玉藻地区では中四国最大級の収容人数を誇るアリーナや交流エリアを有する新県立体育館が建設</li> <li>・日本版Ma a Sによる瀬戸内海の海上交通オンデマンド化を見据えた港湾管理電子化実証実験を高松港で実施</li> <li>・サンポート高松や北浜alley等の賑わい</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭による賑わい</li> <li>・マリレジャーの活況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺港湾の積極的なクルーズ船誘致</li> <li>・新県立体育館建設のため、賑わい空間として利用されていた広場が縮小</li> <li>・新県立体育館など玉藻地区の開発に伴う交通渋滞</li> <li>・観光需要の繁盛期と閑散期で必要な人員に差</li> <li>・人口減少と労働力不足</li> <li>・船舶の大型化</li> </ul>

## 3) 安全・安心面

	港湾活動へのプラス要因	港湾活動へのマイナス要因
内的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高松港BCPの策定及び訓練の実施</li> <li>・香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェリー岸壁の耐震化が出来ていない</li> <li>・風水害や感染症等に対応した高松港BCPの充実化が図られていない</li> <li>・利用頻度の低い岸壁が多い</li> <li>・港湾・海岸施設の老朽化</li> <li>・港湾管理者の財政状況の悪化</li> </ul>
外的要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の大規模災害の復旧作業において、フェリーなど海上輸送が活躍</li> <li>・国の現地対策本部設置が予定されている高松サンポート合同庁舎が立地</li> <li>・四国の他地域と比較して、津波到達時間が遅く、津波高が小さい地理的環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後30年以内に70～80%の確率で発生すると予測されている南海トラフ地震</li> <li>・自然災害の激甚化・頻発化</li> <li>・産業におけるグローバルサプライチェーンの進展</li> <li>・人口減少と労働力不足</li> </ul>

## (2) 上位計画・関連計画

高松港が目指すべき方向性と上位計画・関連計画における主な港湾関連施策を整理したものを以下に示します。

【物流・産業】	
I. 地域産業の競争力強化につながる海上物流基盤の強化	
<b>【計画名/国】</b> ・港湾の中長期政策「PORT2030」 ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～ ・四国圏広域地方計画	<b>【計画内容】</b> ・グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築 ・情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 ・コンテナ船やバルク船等の大型化等に対応した港湾整備による物流効率化 ・港湾・物流活動のグリーン化～CO <sub>2</sub> 排出源・吸収源対策～ ・国内外と四国圏を結ぶ海上輸送拠点として、高松港における国際物流ターミナル等の整備を推進
<b>【計画名/県】</b> ・「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	・デジタル技術を活用した地域課題の解決と産業の活性化 ・地球温暖化対策の推進
<b>【計画名/市】</b> ・第6次高松市総合計画 ・高松市都市計画マスタープラン	・拠点性を発揮できる都市機能の充実（拠点性を高める交通網の整備と利用促進） ・環境と共生する持続可能な循環型社会の形成（地球温暖化対策の推進） ・高松港におけるコンテナターミナルの整備促進
II. 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保	
<b>【計画名/県】</b> ・「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～ ・高松広域都市計画区域マスタープラン	<b>【計画内容】</b> ・企業立地の促進と産業基盤の強化 ・臨海部における工業用地等の造成、企業進出の推進
【交流・賑わい】	
III. フェリーターミナルの安全・快適性の確保	
IV. 既存施設の再構築とみなとまちの賑わい創出	
<b>【計画名/国】</b> ・港湾の中長期政策「PORT2030」 ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～ ・四国圏広域地方計画	<b>【計画内容】</b> ・情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 ・列島のクルーズアイランド化 ・バスウィンドウの予約管理システムの導入、システムとMaaSの連携促進 ・クルーズ船の受入環境改善を図るための積極的な情報発信により寄港地誘致を促進
<b>【計画名/県】</b> ・「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	・MICE、クルーズ客船誘致の推進 ・デジタル技術を活用した地域課題の解決と産業の活性化 ・行政のデジタル化の推進
<b>【計画名/市】</b> ・第6次高松市総合計画	・参画・協働によるコミュニティの再生（離島の振興） ・訪れたい観光・MICEの振興（観光客受入環境の整備）
【安全・安心】	
V. 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保	
<b>【計画名/国】</b> ・四国港湾ビジョン2040～「効・創・適」新しい港の様式～ ・四国圏広域地方計画	<b>【計画内容】</b> ・ハード対策（耐震強化岸壁の整備等）とソフト対策（航路啓開等の体制強化） ・海岸保全施設の整備など地震・津波対策の推進 ・臨海部の防災拠点として緊急物資輸送を担う耐震強化岸壁の整備を推進
<b>【計画名/県】</b> ・「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～ ・香川県地域防災計画	・南海トラフ地震・津波対策の推進 ・防災上重要な高松港において、耐震強化岸壁や電源浸水対策施設の整備に努める。 ・「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、整備優先度の高い箇所から計画的に海岸保全施設の整備を行うよう努める。
<b>【計画名/市】</b> ・高松市地域防災計画	・防災上重要な高松港において、耐震強化岸壁の整備に努める。 ・「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、整備優先度の高い箇所から計画的に海岸保全施設の整備を行うよう努める。
VI. ストックマネジメントの推進	
<b>【計画名/国】</b> ・四国圏広域地方計画	<b>【計画内容】</b> ・急激に進むと考えられる社会インフラの老朽化対策を推進
<b>【計画名/県】</b> ・「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画 ～海と田園と都市の魅力があふれる香川をめざして～	・公共土木施設の老朽化対策の推進
<b>【計画名/市】</b> ・第6次高松市総合計画	・健全で信頼される財政運営の確立（効率的で効果的な行財政運営の推進）



## 6.4 実現に向けた取組み

### (1) 物流・産業

#### 1) 地域産業の競争力強化につながる海上物流基盤の強化

##### ① 国際物流ターミナルの外貿機能強化

##### (5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

朝日地区では、効率的な輸送体系の構築により地域産業の競争力強化を図るとともに、大規模災害時の緊急物資輸送体制等の確保を目的として、コンテナターミナルや、(-12m)耐震強化岸壁を有する国際物流ターミナルの整備を進めています。

しかしながら、コンテナターミナルでは、ヤードが狭く歪な形状であるため、非効率な荷役作業を余儀なくされているほか、県内企業とのつながりが緊密化している東南アジアとの定期航路の誘致を考えた場合、航路の平均的な船型が必要とする岸壁水深を確保できていない状況です。また、コンテナターミナルが更なる発展を遂げるためには、より多くのコンテナ貨物を集貨するとともに、空コンテナ削減に向け、輸出入のバランスをとることが必要であり、情報通信技術の活用や背後地にロジスティック・ハブを形成するなど、一層の物流の効率化が求められています。

一方、(-12m)耐震強化岸壁では、海外と直接輸出入している大型の PCC 船の寄港実績がありますが、岸壁延長が若干短いため、同種同型の船舶では、特定の船舶しか寄港できず、高額なチャーター費用が定着への障害となっています。

県内企業とアジア諸国との経済関係の緊密化が進展する中、高松港が物流拠点として、地域産業の競争力強化に寄与する港であり続けるため「国際物流ターミナルの外貿機能強化」を図ります。

#### 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)

##### (1) 海上物流基盤の強化

- 1) コンテナ物流の効率化に向けた対応
- 2) 東南アジアとのコンテナ定期航路就航に向けた対応
- 3) 貨物船の大型化への対応

#### ①-1. コンテナターミナルのヤード拡張、岸壁の増深・延伸(一部実施中)

- 荷役作業の効率化を目指し、高松港コンテナターミナルのヤード拡張に取り組みます。
- 東南アジアとのコンテナ定期航路の誘致を目指し、岸壁の増深・延伸に取り組みます。

#### ①-2. 情報化技術の導入(一部実施中)

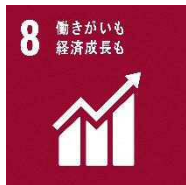
- 荷役作業の効率化とサービス水準の向上を目指し、情報化技術の導入に取り組みます。

①-3. (-12m)耐震強化岸壁の延伸

- 入港できる対象船舶の幅を広げ、利便性の高い港を目指し、(-12m)耐震強化岸壁の延伸に取り組みます。

①-4. 倉庫用地の確保(既定計画)

- 物流の効率化による海上貨物の集荷を目指し、港湾の背後地にロジスティックハブの形成が可能となる大規模な倉庫用地の確保に取り組みます。



## ② 高松神戸航路の物流機能強化

## ( 5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

国内の物流では、深刻な人手不足に起因する労働生産性の向上と環境負荷低減の観点から、トラック輸送からのモーダルシフトが進行しています。高松神戸航路においても、取扱貨物量の増加に伴い、フェリーが満船のため乗船できないことや、岸壁背後に待機車両が駐車できないケースが発生しており、早期の改善が求められています。

高松港がモーダルシフトの受け皿として、企業の競争力を高める利便性の高い港となるため「高松神戸航路の物流機能強化」を図ります。

## 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)

## (1)海上物流基盤の強化

## 1) コンテナ物流の効率化に向けた対応

## ②-1. 岸壁の新設(実施中)

- 輸送力強化に向けて、運航事業者が新造船を建造しており、船舶の大型化に対応した岸壁整備に取り組みます。

## ②-2. 車両待機スペースの拡張(実施中)

- 無駄な作業(横持ち)の排除による作業効率の向上を目指し、車両待機スペースの拡張に取り組みます。

8 働きがいも  
経済成長も9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任

### ③ 臨海部を円滑に結ぶ幹線道路の整備

船舶を活用した輸送モードにおいて、物流拠点である港から先の末端輸送は、主にトラック輸送が担っています。このため、港付近の幹線道路では、国際海上コンテナ車など大型の貨物車両が多く通行しており、安定した交通機能の確保が求められていますが、物流拠点付近にある琴電本町踏切は、市道の交差点内に存在する複雑な形状となっており、交通の流れが悪くなっています。

円滑な港湾物流機能を確保するため、「臨海部を円滑に結ぶ幹線道路の整備」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)  
 (1) 海上物流基盤の強化  
 5) 高松港へのアクセス機能強化に向けた対応

#### ③-1. 暫定整備の実施（実施中）と対応策の検討

- 港湾を利用する貨物輸送の立場から、本町踏切における暫定整備の早期完成を要望するとともに、琴電連立検討委員会での判断を踏まえ、関係機関とともに円滑な港湾物流機能の確保に取り組みます。



#### ④ 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化

世界各国が脱炭素社会の実現に向け舵を切っており、我が国においても、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すと言っています。

カーボンニュートラルの実現には、電力部門の脱炭素化だけでなく、産業・民生・運輸部門といった需要サイドの徹底した省エネルギー化を進めるとともに、使用するエネルギーの脱炭素化（エネルギー転換）を進めることが重要であり、国際物流の結節点・産業拠点である港湾においても、積極的な取り組みが求められています。

我が国の脱炭素社会の実現に貢献するため、「脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)
- (2) エネルギー拠点としての機能強化
- 1) 脱炭素社会の実現に向けた対応

#### ④-1. 国や企業との連携によるエネルギー施策の促進

- 脱炭素社会の実現に貢献する高松港を目指し、国や企業と連携したカーボンニュートラルポートの実現に向けた取組みを推進します。



II) 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保

① 海面処分場の設置と産業用地の確保

高度成長期、港湾整備により発生する浚渫土砂は、臨海部の埋立事業等に用いられ、産業誘致など、地域の発展に大きく寄与してきましたが、産業構造の転換や環境への配慮から埋立事業が減少しており、浚渫土砂処分場の確保が課題となっています。

一方、海外への技術流出防止や新興国の賃金上昇、コロナ禍で露見したサプライチェーンの脆弱性等の理由から、製造業の国内回帰の兆しも見られます。

安定した浚渫土砂処分場と企業立地の受け皿等を確保するため、「海面処分場の設置と産業用地の確保」を図ります。

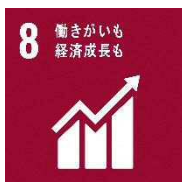
- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.1 物流・産業面の要請と課題)  
 (3) 臨海地区での産業用地の確保  
 1) 産業用地確保に向けた対応

①-1. 短期・長期的な海面処分場の設置と産業用地の確保(既定計画)

- ▶ 浚渫土砂等の処分場の安定確保と臨海部の土地需要に対応するため、計画的な海面処分場の設置による産業用地の確保に取り組みます。

①-2. 産業用地に対する交通機能強化

- ▶ 産業用地の利便性向上に寄与する交通機能強化のため、高松環状道路及び高松空港連絡道路の整備を促進します。



(2) 交流・賑わい

III) フェリーターミナルの安全・快適性の確保

① 中央突堤の歩行者・自動車動線の整理と空間の確保

玉藻地区のフェリーターミナルは、離島住民の生活基盤だけでなく、観光分野においても、離島への玄関口として重要な役割を果たしています。離島の人口が減少傾向にある中、フェリーターミナルがサンポート高松へ移転して以降、乗船客数を順調に伸ばしていますが、フェリー乗船口付近での歩行者動線と自動車動線の輻輳や、繁盛期における待合空間の不足が課題となっています。

フェリーターミナルの安全・快適の確保を目指し、「中央突堤の歩行者・自動車動線の整理と空間の確保」を図ります。

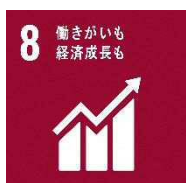
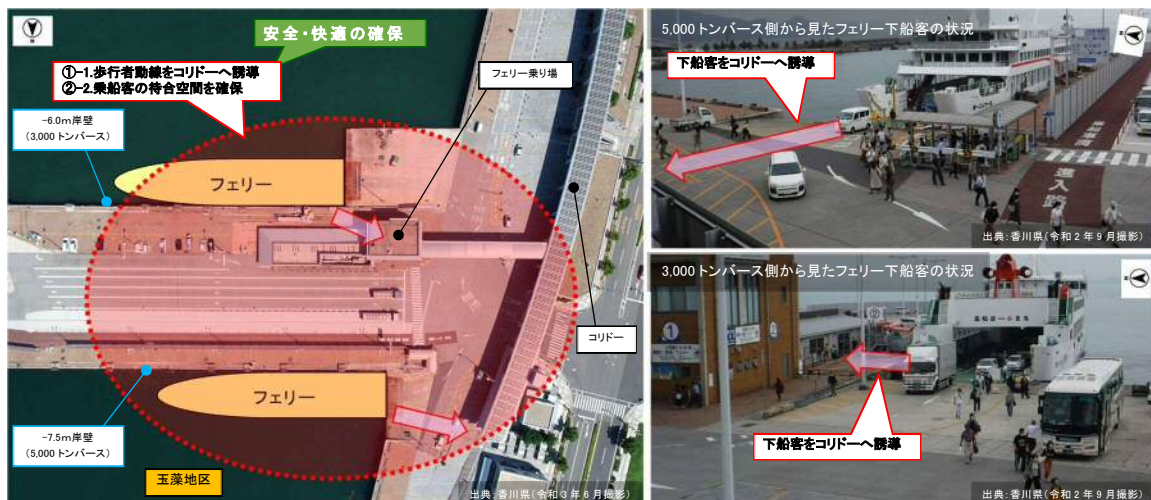
- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (1) フェリーターミナルの安全・快適性の確保  
 1) フェリーターミナルの機能向上に向けた対応

①-1. 歩行者動線をコリドーへ誘導

- 安全確保と利便性の向上に向け、歩行者動線のコリドーへの誘導(エスカレータの設置やコリドーに魅力あるスポットの設置)に取り組みます。

①-2. 乗船客の待合空間の確保

- 快適なフェリーターミナルを目指し、乗船客の待合空間の確保に取り組みます。



## ② 玉藻地区における交通渋滞対策

玉藻地区に新県立体育館の整備が進められています。体育館への交通手段としては、玉藻地区が海陸交通の結節点であることから、公共交通機関の利用を想定していますが、大規模イベント時における一時的な交通渋滞の発生による、周囲への影響が懸念されます。

イベントなどによる一時的な交通渋滞に対応するため、「玉藻地区における交通渋滞対策」を図ります。

### 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)

- (1) フェリーターミナルの安全・快適性の確保
- 2) フェリーターミナル周辺における交通渋滞への対応

### ②-1. 交差点改良

- 交通渋滞の緩和を図るため、臨港道路の交差点改良に取り組みます。

### ②-2. フェリー乗り場付近へのバス停の設置（実施中）

- 公共交通機関の利用促進を図るため、新たなバス停の設置に取り組みます。





## IV) 既存施設の再構築とみなとまちの賑わい創出

① 玉藻地区におけるクルーズ客船受入れ機能の強化  
(5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

玉藻地区の客船専用岸壁では、5万トン級までのクルーズ客船を受入れており、「街から近く、景観が素晴らしい」と好評を得ています。一方、11万トン級までのクルーズ客船の受入れが可能な朝日地区のコンテナ岸壁では、コンテナ船との調整が困難であることに加え、街から遠い貨物船岸壁での受入れとなり、良い評価が得られていません。クルーズ客船の大型化や港間の受入れ競争が激化する中、岸壁機能と受入れ環境の両立が求められています。

より多くのクルーズ客船に選ばれる港を目指して、「玉藻地区におけるクルーズ客船受入れ機能の強化」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2) みなとの賑わい創出  
 1) 大型クルーズ客船の受入れに向けた対応

## ①-1. 岸壁の延伸、浚渫により、11万トン級に対応

- 玉藻地区での11万トン級のクルーズ客船受入れに向けて、既存岸壁の延伸及び浚渫に取り組みます。

## ①-2. 観光バス待機空間の確保

- クルーズ乗船客が利用する観光バスの待機空間を確保するため、既存空間の活用に向けた調整に取り組みます。

8 働きがいも  
経済成長も

## ② ウォーターフロントの賑わい空間を構築

玉藻地区では、海辺空間の賑わい創出を目指して、街と海との接線において、連続するプロムナードの整備を進めていますが、地区の東・西の賑わいに比べ、玉藻公園北側周辺は閑散とした状況となっています。また、新県立体育館の整備に伴い、玉藻地区の賑わい・交流拠点の1つとして利用されてきた広場が縮小されるため、地区内に同様な機能の確保が求められています。

連続したプロムナードを形成し、海辺空間の賑わいを創出するため、「ウォーターフロントの賑わい空間構築」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2) みなとの賑わい創出  
 2) ウォーターフロントの賑わい創出に向けた対応

### ②-1. 民間活力を導入した中央ふ頭の再生

- 中央ふ頭付近の賑わいを創出するため、民間活力を導入した中央埠頭の再生に取り組みます。

### ②-2. 多目的利用が可能な広場の確保

- これまで利用してきた広場の代替として、また、連続したプロムナードを形成するため、同地区内に多目的利用が可能な広場の確保等に取り組みます。



### ③ MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現

瀬戸内海は、美しい景観と自然の中で培われてきた文化や歴史とが融合する魅力的な地域であり、ニューヨークタイムズ(米国)においても高く評価されています。

こうした観光資産を生かして、観光客の県内滞留を促すためには、島嶼部も含めた「みなと」と「みなの」を結ぶネットワークを構築し、広域的な周遊性を高めることが必要であり、実現に向けて、観光客の利便性向上と継続的なサービス改善が求められています。

一方、人手不足で弾力的な労働力の調整が困難な状況の中、受入れ側が同程度のサービスを行うとしても、繁盛期と閑散期の体制が大きく異なるため、安定したサービスの提供に向けた業務の改善が必要です。

瀬戸内の自然と文化に触れる交流の「みなと」づくりを目指して、「MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)
- (2)みなとの賑わい創出
- 3)情報通信技術の活用による利便性の向上に向けた対応

#### ③-1. 「MaaS」によるサービスの一元化と「DX」による業務の改善(実施中)

- 棧橋管理の電子化など、民間企業による情報通信技術を活用した「利用者の利便性向上」「管理者・事業者の業務効率化」に向けたシステムの開発に協力します。

#### ③-2. MaaSアプリによるデータ利活用基盤の構築とサービス改善

- 旅行者の移動の円滑化及び体験価値向上のため、MaaSアプリで収集したデータに基づく人流・滞在パターンの分析を行い、継続的なサービスの改善に取り組みます。

#### 【イメージ(事例)】



**最適な旅程を提案!**

**空** 飛行機の出発・到着時間、空港、便

**陸** バス・鉄道の種類・便や徒歩の時間

**海** 海上タクシー・定期船の乗り場・出発時間

- アートスポットの巡る順番
- 滞在/宿泊日数



出典:瀬戸内海上都市ビジョン協議会・2019年度事業内容報告書を加工して作成

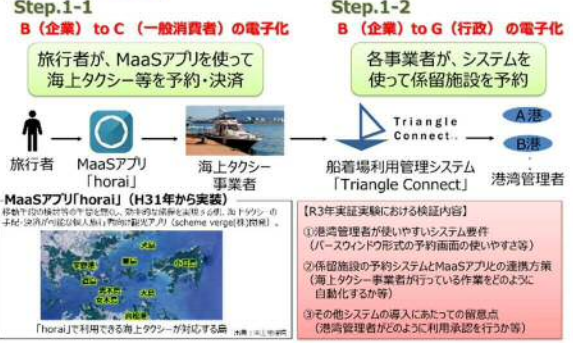
現在 Step.0



将来 Step.2



現在(実験段階)



さらに将来 Step.3

- 宿泊施設や交通手段(鉄道・バス・レンタサイクル等)の予約など、様々なサービスとの連動
  - 収集したデータに基づく瀬戸内の人流・滞在パターン分析
  - 係留施設の需要変動に対応した変動料金の設定
  - 他地域に応用可能なサービスプラットフォームの開発・整備
- 出典: 四国地方整備局資料を加工して作成

収集したデータに基づく瀬戸内の人流・滞在パターンの分析

- ・ユーザーの興味関心に合わせた情報の配信
- ・必要箇所へのバス路線等の開設
- ・人の滞留箇所での賑わいスポット等の開設

など、**継続的なサービス改善による賑わい創出**



8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

④ 賑わいエリアからの景観向上

玉藻地区は、瀬戸内海の多島美、玉藻公園、屋島、船が行き交うみなとの風景が広がる魅力的なロケーションとなっています。

一方、隣接する朝日地区には、工場や物流倉庫、エネルギー基地などが集積し、物流・生産拠点らしい景観を有していますが、賑わいエリアである玉藻地区や船上からの風景の一部として、周囲の風景と調和することが求められています。

港湾空間の景観の質を高め、活力とうるおいのある港湾空間を創り上げるため、「企業との協働によるみなと色彩計画の策定」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2)みなとの賑わい創出  
 4)賑わい空間の景観向上に向けた対応

④-1. 企業との協働によるみなと色彩計画

- 美しい自然景観と物流・生産拠点との調和を目指して、みなと色彩計画の検討に取り組みます。



**【参考事例】清水港における色彩計画の取組み**

**色相相話会**  
 事業者は事務局に問合せ  
 事務局と事前相談  
 事業者は協議書を出し  
**色彩相話会**  
 事業者は色彩計画推進協議会と協議  
 助言・指導 ※1

**事業者がある場合**  
 地区別色制計画及び  
 周辺環境を現地調査し  
 アドバイスします

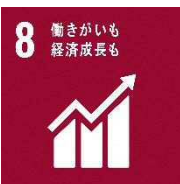
**事業者がない場合**  
 事業者の意向を把握  
 現地調査し、配色デザインを  
 提案します

事業者は配色デザイン計画の決定  
 事務局は確認書を作成・発行  
**実施** ※2  
**完成**  
 事業者は実施完了報告として  
 施工前・施工後写真を事務局へ提出をお願いします

**配色の方針**  
 シンボルカラー  
 アクセントカラー アクセサリカラー  
 ベースカラー

AMANO  
 アクセサリカラー  
 企業のロゴカラーなど  
 一貫性の高い配色による色  
 アクセントカラー

出典:清水港・みなと色彩計画資料を加工して作成



## ⑤ 船溜まりの静穏度確保

波が穏やかで美しい瀬戸内の海では、クルージング、フィッシング、ヨットなどマリンレジャーが盛んに行われています。背後に市街地の広がる高松港の船溜まりは、利便性が高く、来訪者の有望な目的地になり得る施設ですが、荒天時の静穏度が低く、海上で係留するには、安全面が課題となっています。

マリンレジャーによる海辺の賑わいを創出するため、「船溜まりの静穏度確保」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.2 交流・賑わい面の要請と課題)  
 (2) みなとの賑わい創出  
 5) マリンレジャー振興に向けた対応

## ⑤-1. 船溜まり前面に防波堤の設置

- 船溜まりの安全性を高め、海面の有効利用するため、荒天時における船溜まりの静穏度確保に取り組みます。



8 働きがいも  
 経済成長も



(3) 安全・安心

V) 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保

① 計画的な地震・津波対策等の実施

県では、平成 16 年 8 月の台風 16 号による高潮被害を踏まえ、護岸や堤防などの防護施設の整備を計画的に進めるため「津波・高潮対策整備推進アクションプログラム」を平成 18 年 3 月に策定し整備を進めてきました。

平成 26 年 1 月、文部科学省地震調査委員会から「南海トラフにおけるマグニチュード 8～9 クラスの地震の発生確率は、今後 30 年以内に 70%程度」との予測が公表されたことから、従来対策の再検討を行い、平成 27 年 3 月「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に移行し、当該計画に沿って整備を進めています。

沿岸地域における県民の安全・安心の確保に向け、計画的な「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」の推進を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)  
 (1)大規模災害への対応力強化  
 1)大規模地震・津波、高潮等への対応

① - 1. 香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の推進（実施中）

- 高潮、地震津波に備えて、計画的な地震・津波対策等の実施に取り組みます。

**■被害想定事例**

出典：香川県津波浸水想定図を加工して作成(最大クラスの地震 高松市②)

**■対策方法の考え方**

出典：香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画(令和2年3月)の図を加工して作成

【参考】東北地方太平洋沖地震による津波

出典：菅代村

H16.8 台風 16 号の高潮による冠水状況

出典：香川県 HP

護岸補強・胸壁岸上

出典：香川県

護岸補強

出典：香川県

水門整備

出典：香川県

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

② フェリー岸壁の耐震化の実施  
 (5. 高松港・坂出港の役割分担と連携関連)

過去の大規模災害時において、フェリーをはじめとする船舶は、被災地への人員・物資輸送等においてその有用性が認められており、今後想定される南海トラフ地震等の大規模災害時においても活躍が期待されています。

離島航路は、生活に必要な物資を離島に供給し、人々を往来させるライフラインとして、大規模災害時においても、航路を維持することが強く求められています。

大規模災害の発生に備えるため、「フェリー岸壁の耐震化」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)
- (1)大規模災害への対応力強化
    - 1)大規模地震・津波、高潮等への対応

②-1. 高松神戸航路のフェリー岸壁を耐震化(実施中)

- 大規模地震発生時における、自衛隊や緊急物資などの受入れ、企業物流活動の継続のため、高松神戸航路のフェリー岸壁の耐震化に取り組みます。

②-2. 離島航路のフェリー岸壁を耐震化

- 大規模地震発生時における離島のライフラインを確保するため、離島航路のフェリー岸壁の耐震化に取り組みます。





### ③ 高松港 BCP の充実

製造業等の国際分業化が進む中、サプライチェーンの寸断は我が国のみならず世界的に影響を及ぼす状況となっています。サプライチェーンの核となる港湾は、直接利用する企業のみならず地域全体の経済・産業を支えており、様々な災害に対して、港湾機能が維持されることが求められています。

様々な災害に対応し、港湾の重要機能が最低限維持できるよう、「高松港 BCP の充実」を図ります。

#### 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)

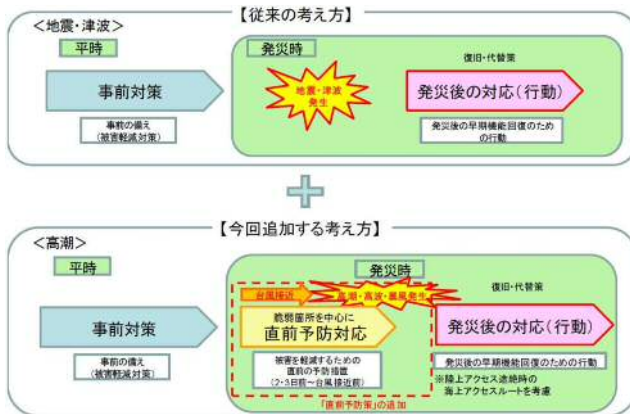
- (1)大規模災害への対応力強化
- 2)港湾 BCP に基づく防災体制構築への対応

#### ③ - 1 . 高松港 BCP の充実

- 「港湾の事業継続計画策定ガイドライン」の改訂版に基づき、高松港 BCP の充実に取り組みます。

#### 「港湾の事業継続計画策定ガイドライン」の主な改訂内容

##### ■台風等による高潮・高波・暴風等への対応を位置づけ(直前予防対応)



出典：国土交通省資料を加工して作成

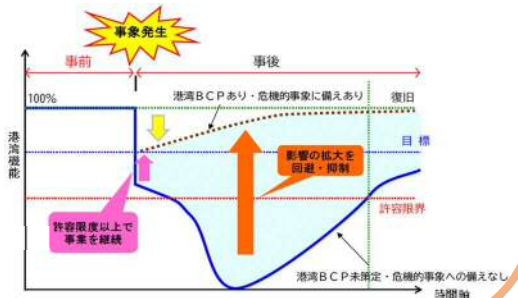
##### ■船舶側の視点からの津波対応を位置づけ

- ①沖合退避の迅速化
- ②係留避泊の安全性向上
- ③船の衝突・乗揚げの抑制



船舶の岸壁への乗揚げが発生(仙台塩釜港)

##### ■感染症への対応を位置づけ(感染症BCPの概念)



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

VI) スtockマネジメントの推進

① 計画的な点検、補修の実施

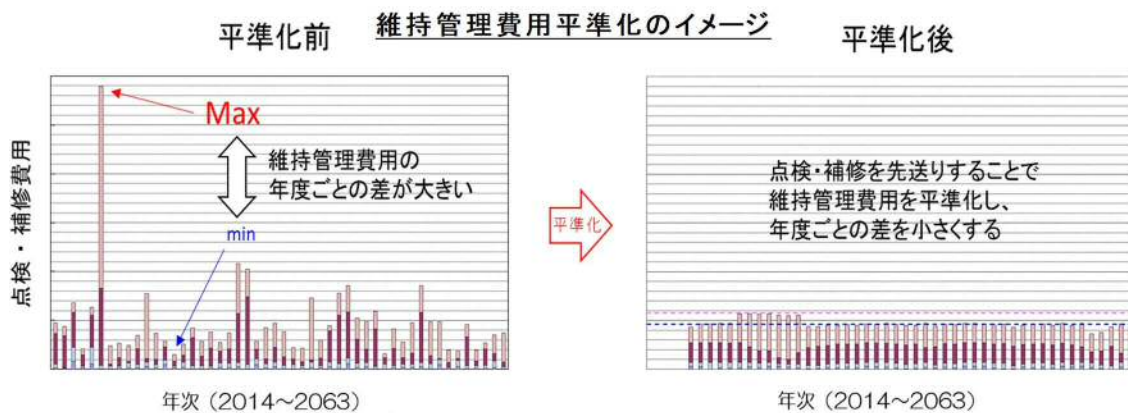
社会経済活動の基盤であるインフラについては、高度成長期に整備したものが一斉に老朽化することが見込まれており、計画的な維持管理・更新による財政負担の軽減や平準化を図りつつ、安心して利用できるよう維持・管理していくことが求められています。

厳しい財政状況の中、社会インフラを継続して維持・管理するため、「計画的な点検、補修の実施」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)  
 (2) スtockマネジメントの推進  
 1) 港湾施設の老朽化対策

①-1. 予防保全計画に基づく計画的な点検、補修、工事の実施(実施中)

- 維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減と予算の平準化を図るため、計画的な点検、補修、修繕の実施に取り組みます。



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



11 住み続けられる  
まちづくりを



## ② 施設の廃止・利用転換

将来計画との整合性も図りつつ、施設の老朽化や利用状況、社会情勢の変化を踏まえ、必要性が乏しくなったインフラの廃止・集約・再編を行うことで、時代に合ったインフラストックの適正化を進め、将来の維持管理・更新費用を抑制することが求められています。

インフラストック適正化に向けて、「施設の廃止・利用転換」を図ります。

- 4 高松港・坂出港の要請と課題(4.3 安全・安心面の要請と課題)  
 (2)ストックマネジメントの推進  
 1)港湾施設の老朽化対策

### ②-1. インフラストックの適正化に向けた施設の廃止・集約・再編

- インフラストックの適正化のため、老朽化や利用状況に応じた施設の廃止・集約・再編に取り組みます。

#### 老朽化や利用状況等に応じた施設の廃止・集約・再編(事例)



(4) 実現に向けた取組みのスケジュール

実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
物流・産業	<b>I. 地域産業の競争力強化につながる海上物流基盤の強化</b>			
	<b>① 国際物流ターミナルの外貨機能強化</b>			
	①-1.コンテナターミナルのヤード拡張、岸壁の増深・延伸(一部実施中)	→	→	→
	①-2.情報化技術の導入(一部実施中)	→	→	→
	①-3.(-12m)耐震強化岸壁の延伸		→	
	①-4.倉庫用地の確保(既定計画)	→		
	<b>② 高松神戸航路の物流機能強化</b>			
	②-1.岸壁の新設(実施中)	→		
	②-2.車両待機スペースの拡張(実施中)	→		
	<b>③ 臨海部を円滑に結ぶ幹線道路の整備</b>			
	③-1.暫定整備の実施(実施中)と対応策の検討	→	→	→
	<b>④ 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化</b>			
	④-1.国や企業との連携によるエネルギー施策の促進	→	→	→
	<b>II. 浚渫土砂等の海面処分場と産業用地の確保</b>			
<b>① 海面処分場の設置と産業用地の確保</b>				
①-1.短期・長期的な海面処分場の設置と産業用地の確保(既定計画)	→	→	→	
①-2.産業用地に対する交通機能強化	→	→	→	

実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
交流・賑わい	<b>III. フェリーターミナルの安全・快適性の確保</b>			
	<b>① 中央突堤の歩行者・自動車動線の整理と空間の確保</b>			
	①-1.歩行者動線をコリドーへ誘導	→		
	①-2.乗船客の待合空間の確保	→		
	<b>② 玉藻地区における交通渋滞対策</b>			
	②-1.交差点改良	→		
	②-2.フェリー乗り場付近へのバス停の設置(実施中)	→		
	<b>IV. 既存施設の再構築とみなとまちの賑わい創出</b>			
	<b>① 玉藻地区におけるクルーズ客船受入れ機能の強化</b>			
	①-1.岸壁の延伸、浚渫により、11万トン級に対応	→		
	①-2.観光バス待機空間の確保	→		
	<b>② ウォーターフロントの賑わい空間を構築</b>			
	②-1.民間活力を導入した中央ふ頭の再生	→	→	→
	②-2.多目的利用が可能な広場の確保	→	→	
	<b>③ MaaSによるスムーズな瀬戸内船旅の実現</b>			
	③-1.「MaaS」によるサービスの一元化と「DX」による業務の改善(実施中)	→	→	→
	③-2.MaaSアプリによるデータ活用基盤の構築とサービス改善	→	→	→
	<b>④ 賑わいエリアからの景観向上</b>			
	④-1.企業との協働によるみなと色彩計画	→	→	→
<b>⑤ 船溜まりの静穏度確保</b>				
⑤-1.船溜まり前面に防波堤の設置		→		

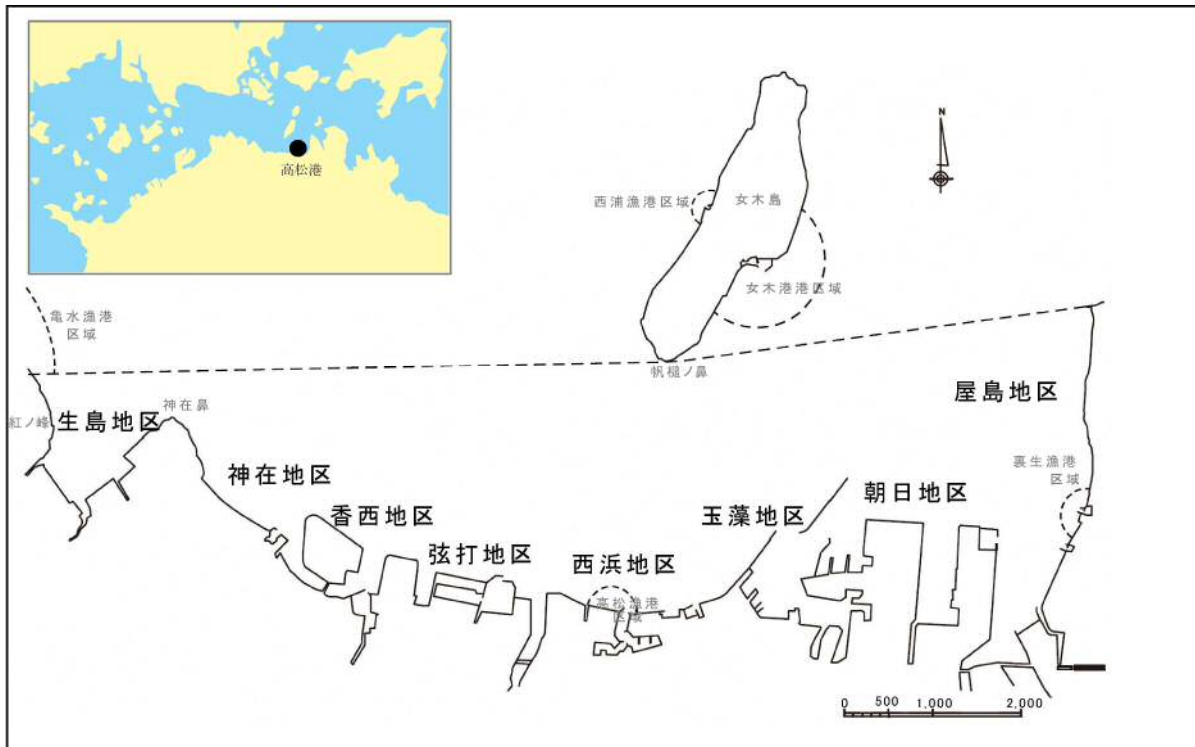
実現に向けた取組みの内容		スケジュール		
		短期(5年)	中期(15年)	長期(30年)
安全・安心	<b>V. 大規模地震・津波等への対応力強化と安全・安心の確保</b>			
	<b>① 計画的な地震・津波対策等の実施</b>			
	①-1.香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画の推進(実施中)	→		
	<b>② フェリー岸壁の耐震化の実施</b>			
	②-1.高松神戸航路のフェリー岸壁を耐震化(実施中)	→		
	②-2.離島航路のフェリー岸壁を耐震化	→		
	<b>③ 高松港BCPの充実</b>			
	③-1.高松港BCPの充実	→		
	<b>VI. ストックマネジメントの推進</b>			
	<b>① 計画的な点検、補修の実施</b>			
①-1.予防保全計画に基づく計画的な点検、補修、工事の実施(実施中)	→			
<b>② 施設の廃止・利用転換</b>				
②-1.インフラストックの適正化に向けた施設の廃止・集約・再編	→			

(5) 実現に向けた取組みとSDGsの17ゴールの相関表

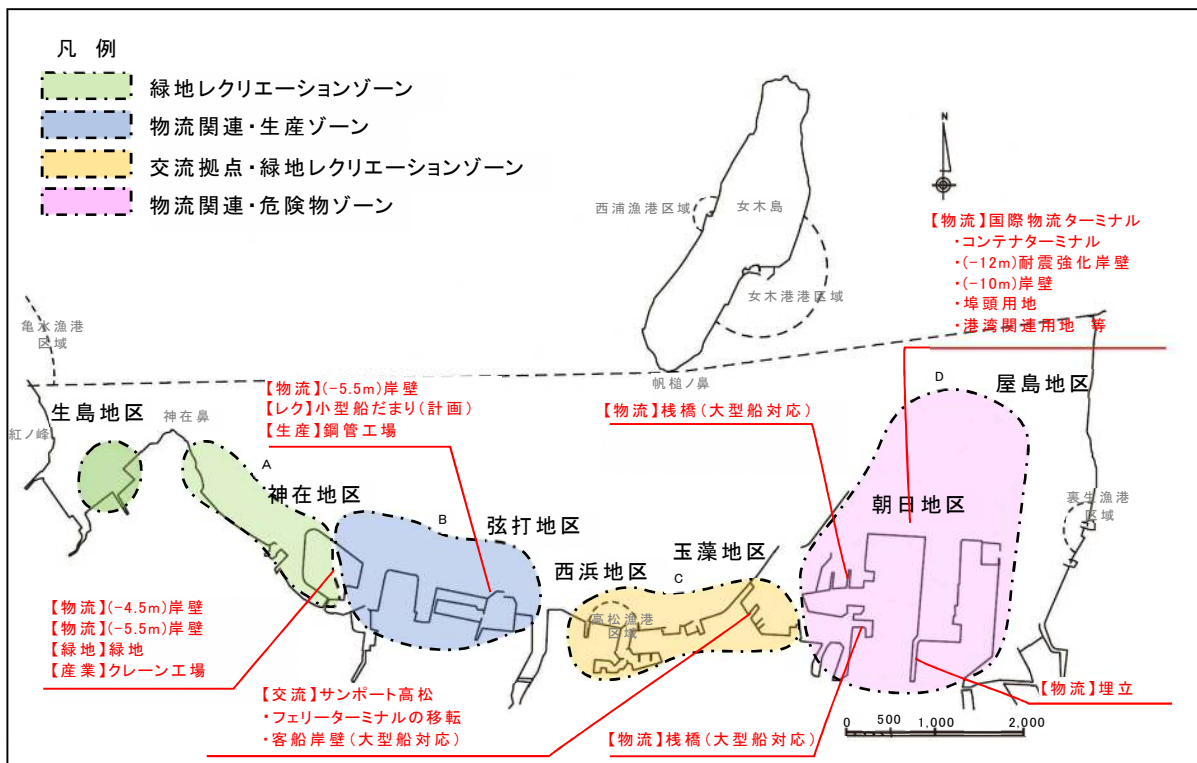
3つの柱	目指すべき方向性	SDGsの17ゴール 実現に向けた取組み	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
			貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう		
【物流・産業】	I	① 国際物流ターミナルの外貨機能強化								○	○		○	○							
		② 高松神戸航路の物流機能強化								○	○		○	○							
		③ 臨海部を円滑に結ぶ幹線道路の整備										○		○	○						
		④ 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化								○	○	○		○	○		○				
【交流・賑わい】	II	① 海面処分場の設置と産業用地の確保								○	○		○	○							
		① 中央突堤の歩行者・自動車動線の整理と空間の確保									○			○							
	III	② 玉藻地区における交通渋滞対策									○	○		○	○						
		IV	① 玉藻地区におけるクルーズ客船受入れ機能の強化									○									
			② ウォーターフロントの賑わい空間を構築									○									
			③ Ma&Sによるスムーズな瀬戸内船旅の実現									○	○		○						
④ 賑わいエリアからの景観向上										○											
⑤ 船溜まりの静穏度確保									○												
【安全・安心】	V	① 計画的な地震・津波対策等の実施									○		○	○	○						
		② フェリー岸壁の耐震化の実施										○		○	○						
		③ 高松港BCPの充実										○		○	○	○					
	VI	① 計画的な点検、補修の実施										○		○							
		② 施設の廃止・利用転換										○		○							

## 6.5 空間利用計画

### (1) 位置図



### (2) 平成9年改訂時の港湾利用ゾーニングと整備した主な港湾施設



### (3) 港湾利用ゾーニング

平成9年改訂時の港湾計画をベースに、改訂以降整備した主な港湾施設と当該長期構想での実現に向けた取組みの位置から、港湾利用ゾーニングを次のとおり設定します。

